

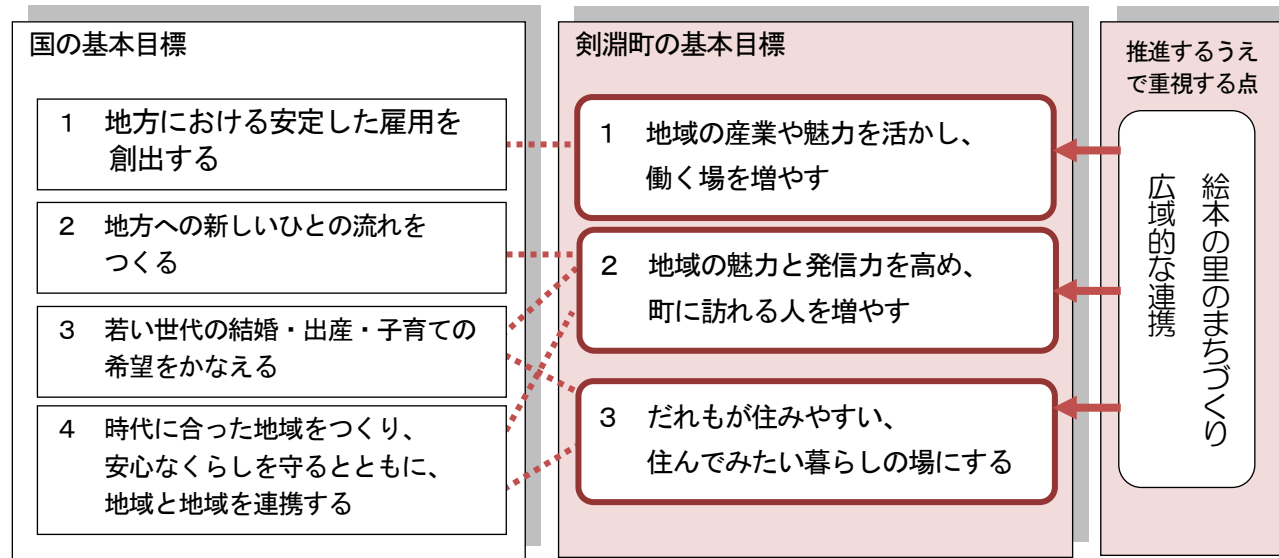
絵本の里けんぶち まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年度報告書）

I 「総合戦略」の概要

- 実施期間は、2015（平成 27）年度から 2019（平成 31）年度の 5 年間です。この戦略の取り組み期間が終了した 2020 年（平成 32）時点で、総人口を概ね 3,000 人維持することを目標とします。
- 「総合戦略」の内容の検証については、各事業担当部署が取りまとめた実施結果および担当部署としての検証結果をもとに「まちづくり町民会議」で検証し、そこでの検証結果をうけて、各事業担当部署において必要な部分については見直しを行い、翌年の事業を設定することとします。これにより「計画（P）」「実施（D）」「検証（C）」「見直し（A）」という PDCA サイクル*を基本に取り組み内容を推進します。
- 基本目標ごとに設定している「数値目標」、施策ごとに設定している「重要業績評価指標（KPI）」の進捗等についても確認し、見直しを行ううえで参考とします。

※計画（Plan）、実行（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）の順に進行管理を進める考え方です。

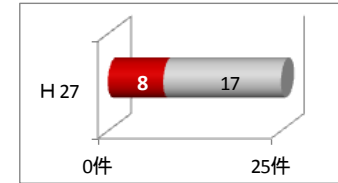
国の総合戦略の「基本目標」と本町の「基本目標」



II 内容の進捗状況

基本目標1 地域の産業や魅力を活かし、働く場を増やす

数値目標	農業および商工業における新規就業者数 25人（5年間合計）
進捗状況	平成27年度 8人【進捗率：32.0%】



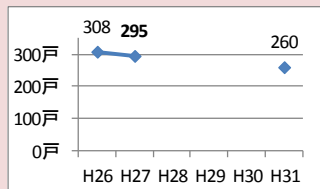
施策1-1 剣淵の農業を支える人達を増やします。

P ~プラン（計画）の内容~

施策の目標（KPI）

■農家数（法人含む）：260戸
（H31年度末）
※H26年度末は308戸。

H27年度末 295戸



本町の基幹産業である農業は、家族で経営している形態がほとんどで、生産者の高齢化、後継者の不足などが問題になっています。今後も安定した農業振興を継続していくには、農業を支える人達の減少を抑制し、Uターン者も含め新たな人達が農業に参入できるようにしていく必要があります。

<取り組み内容>

- ①農業の法人化、作業受託など営農支援組織の確保、安定的な生産供給体制の整備
- ②Uターン者を含む新たな農業従事者の確保に向けた取り組み（農業体験や研修・支援、ファームステイや後継者向けの住宅の整備など）

D ~これまでに実施したこと~

※①②・・・は<取り組み内容>の番号です。
交付金事業には【交付金事業】と記載しています。

- ①法人化に向けて情報提供等の取り組みを進めたが、平成27年度に法人化した組織はなかった。【農林課】

C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】

・農業振興計画（H28～32年度）に係るアンケートでは、法人化に対して「法人化の必要がない」「わからない」の回答が66%を占めており、法人化に対する積極性が低いことが進まない要因となっている。また、受託作業組織の確保においては、「受託を増やしたい」「受託をはじめたい」などの回答が各10%未満となっている。このことから、取組への意欲を高めることが重要と考える。

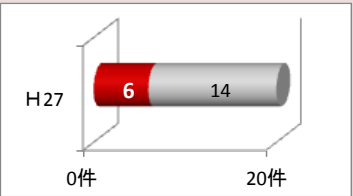
A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~

・VIVA マルシェが法人化に向けて準備を進めているなど動きも出ている。その他生産者の意欲を高めていくために、助成事業とあわせて情報提供や技術指導の強化等を進めていく。

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
<p>②農業研修の受け入れはなかったが、札幌の中学生を農業体験という形で受け入れを行った。【農林課】</p>	<p>・農業者18戸と剣淵高校に、札幌の中学生58名の受け入れをした。今後も、剣淵町の魅力を伝えていくことが必要である。</p>	<p>・研修や農業体験に参加する方が町に関心を持ち、移住や就農に結びつけていくように努める。受け入れる側にも、農業体験や研修等の支援事業や情報提供を行う。</p> <p>・新たに農業を始めたい方の集会への参加、農業に関心を持っている方に町を知ってもらう取り組みを積極的に行う。</p>

施策1-2 剣淵の農業を基盤に新たな事業や雇用を増やします。

P ~プラン（計画）の内容~

<p>施策の目標（KPI）</p> <p>■「起業化支援事業」および「新商品開発・販路開拓支援事業」の利用件数：20件（5年間合計）</p>	<p>本町ではこれまで、生産した農畜産物等をそのまま町外に出荷している状態が多くを占めていますが、生産品の出荷だけでは、雇用や生産販売額の拡大には限界があります。</p> <p>農畜産物等の加工や販売、町内での直売、農業資源の活用など、農業を基盤に、新たな事業や雇用の場を増やしていく必要があります。</p>
<p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">H27年度 6件 【進捗率：30%】</p> 	<p><取り組み内容></p> <p>①剣淵町のPRにつながりつつ、特産品、名産品となりうる農産物栽培の推進（じゃがいも活用の拡大、キヌアづくりなど）</p> <p>②農商工（高）連携による、農畜産物を用いた加工品づくりの推進</p> <p>③農畜産物を活用した起業化の支援、企業の誘致など（加工等事業を行う、起こす団体・グループ、個人自営業者、会社など）</p> <p>④農畜産物や加工品など、町外でのPRや販売機会の拡充（VIVA マルシェをはじめ生産団体・グループなどが実施する地場産品の販売・販路開拓支援、ふるさと納税お礼品での活用など）</p> <p>⑤農業残渣物の活用促進</p>

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
<p>①【交付金事業】じゃがいもプロジェクト支援事業 事業費 1,000,000 円 (KPI) 商品・試作品開発件数 2 件／実績値 2 件</p> <p>・剣淵産じゃがいものキャラクターを製作し、じゃがじゃがデーには 3 種のじゃがいも加工品の食べ比べを実施した。【農林課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加工商品の特産品化には至らなかった。 ・じゃがいもプロジェクト実行委員会は、発展的に解散し、平成 28 年 4 月に新たに農業ブランド化推進協議会を設立した。 ・キャラクター入りのシールをつくり、一部のじゃがいも商品に貼って、PRを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度は農業ブランド化を含め、さらなる調査、研究を行う。 ・剣淵町農産物全般の特性を活かした有利販売や加工品づくりを推進し、魅力ある「けんぶち」ブランドを醸成することを目的としている。今後、シールについてはブランド化事業全体で活用を図りたい。
<p>①【交付金事業】キヌア栽培研究事業 事業費 723,028 円 (KPI) 商品・試作品開発件数 1 件／実績値 4 件</p> <p>・キヌアの試作品としてピザ、クッキー、おにぎり、サラダを試作した。【農林課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品化に向けたさらなる研究が必要である。 ・景観作物としての活用も研究していくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫後のキヌアは、特産品化へ向けた検討を行っていくとともに、景観作物など観光資源としての活用を図れるよう研究する。
<p>③【交付金事業】起業化支援事業 事業費 6,000,000 円 (KPI) 新事業に取組む件数 1 件／実績値 2 件 【町づくり観光課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本業から異業種への起業展開により、地域内雇用の増加や起業化による商工業者の経営意識を高める成果が見られた。今後は商工会や金融機関の連携により、助成件数を増加させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会や金融機関と連携し、助成件数を増加させていく。
<p>④【交付金事業】新商品開発・販路開拓支援事業 事業費 2,955,000 円 (KPI) 助成件数 5 件／実績値 4 件</p> <p>・じゃがいもを利用した商品開発、スードレ、ネギ塩だれ、じゃがいもを海外（ロシア極東地域）に輸出した。【町づくり観光課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発、海外輸出による販路開拓など大きな成果があった。 ・じゃがいものほか、まだ発掘されていない地域の特産物での商品開発などさらなる掘り起しが必要。 ・ふるさと納税お礼品は、農産物の人気が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ発掘されていない地域の特産物を利用した新たな商品の開発など、さらなる掘り起しを進める。 ・ふるさと納税については、「ふるさとチョイス」など Web サイトで募集し、旬の農産物の活用をより一層促していく。
<p>②剣淵町特産研究グループ「福有会」による、剣淵高校生へのみそづくり講習会を実施した。【農林課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「福有会」による、剣淵高校生へのみそづくり講習会を実施し、加工品づくりを推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内加工研究団体と剣淵高校との連携が継続できるよう支援する。
<p>⑤農業残渣物の焼却に関する注意喚起を促すための啓発チラシを作成し、全農業者への配布や無線放送、自治会回覧を通じて啓発を行った。【農林課】</p> <p>⑤バイオマス燃料へ転換する先進地の視察を実施した。【農林課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・残渣物に関しては、いまだ焼却している農業者が多い。注意喚起とともにその他の活用促進も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却を行わないよう引き続き随時注意喚起を行っていくとともに、すき込みによる堆肥化やバイオマス燃料への転換に関する研究を進める。

施策1-3 剣淵の商工業を支える人を応援します。

P ~プラン(計画)の内容~

施策の目標 (KPI)		<p>商工業も農業と同様に、経営者の高齢化や後継者不足により、町内の店舗が減少しています。</p> <p>町民の生活や生産活動を支える商工業がこれからも継続するよう、剣淵町内での消費活動が活性化するように促進するとともに、商工業においても後継者や継承者を増やし、新たに起業をめざす人にも支援していく必要があります。</p> <p><取り組み内容></p> <p>①商工業者の後継者、継承者の確保、新たに起業をめざす人に向けた取り組み</p> <p>②UIJ ターン者の就業支援</p> <p>③地域の消費喚起 (購買促進プレミアム商品券)</p>
<p>■商工会会員数：100人 (H31年度末)</p> <p>※H26年度末は111人。</p>	<p>■「中小企業等 UIJ ターン者 応援事業」の利用件数：20件 (5年間合計)</p>	
<p>H27年度末 108人</p>	<p>H27年度 3件【進捗率 15%】</p>	

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
<p>①【交付金事業】起業化支援事業 事業費 6,000,000円 (KPI) 新事業に取組む件数 1件 / 実績値 2件 【町づくり観光課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本業から異業種への起業展開により、地域内雇用の増加や起業化による商工業者の経営意識を高める成果が見られたが、今後は商工会や金融機関の連携により、助成件数を増加させていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の需要予測を図りながら、地域の独自性を反映させた起業を促すための情報提供を行い、事業を実施する。
<p>②【交付金事業】けんぶち中小企業 UIJ ターン応援事業 事業費 660,000円 (KPI) 助成人数 10人 / 実績値 3人 【町づくり観光課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> KPI よりかなり少ない実績値となった。理由としては、単身者向け住宅が少ないことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主な就業先である社会福祉法人等の募集状況を把握し、住宅環境の整備等を検討する。また、事業の利用促進のため、広く町民へ周知する。 今後、公営住宅については、平成 28 年度に新たな計画を立て人口動向を把握しながら検討する。
<p>③【交付金事業】購買促進プレミアム商品券事業 (プレミアム率 25%) 事業費 14,323,122円 (事務費含む) ・販売額 55,000,000円 ・発行額 68,750,000円 (追加発行含む) に対して、換金・利用実績 68,589,500円、利用率 99.8% 【町づくり観光課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンケートから類推される新規の消費喚起額は 25,169,749円であり、商品券の利用により、他の商品への購買意欲が喚起されるなど町内の経済循環が活性化した。 住民が万度に購入できないなどの課題も残った。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度については、町単独事業費になるが継続して事業を実施する。 平日に商品券を購入できない人達も購入できるよう、販売方法を工夫する。

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
①新規就業奨励金支給事業補助金（担い手対策）【町づくり観光課】	<ul style="list-style-type: none"> 新規就業するにあたり、就業者の意欲を高める結果につながっている。より幅広く周知し、利用を促進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに幅広く補助金の周知を行っていく。

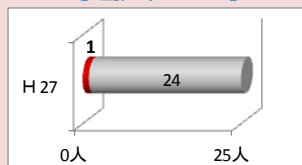
施策1-4 剣淵高校との連携を深め、卒業生の働く場を増やします。

P ~プラン（計画）の内容~

施策の目標（KPI）

■剣淵高校卒業生の町内就業数：25人（5年間合計）

H27年度 1人
【進捗率：4%】



町内には、町立の剣淵高校があり、「農業国際系列」「生活福祉系列」の2つの系列で、それぞれの専門的な知識や技術を学んでいます。

現状では、町外からの入学する生徒が多いこともあり、卒業後はそれぞれの地元など町外に転出することが多い状況ですが、町内の農業者や町内にある福祉関連の施設等で働く生徒が増えるようにしていく必要があります。

<取り組み内容>

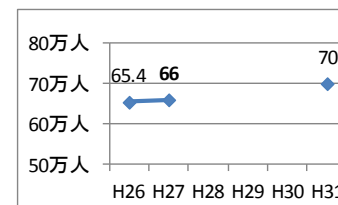
- ①剣淵高校の積極的なPR
- ②町内の農業者と高校生が連携・交流する機会の創出（VIVA マルシェをはじめ生産団体・グループとともに行う活動など）
- ③剣淵高校と福祉施設の連携による、福祉分野での雇用の創出（福祉施設の入所定員、職員待遇の検討）

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
①剣淵高校の特色ある教育活動を積極的に紹介するとともに、中長期的な活動により本校入学者の安定的な確保を図るため、平成27年度は次の取り組みを実施した。【高校】 <ul style="list-style-type: none"> 近隣市町、旭川市、上川管内、道北圏、空知管内 中学校訪問 町内と旭川市での剣淵高校説明会の開催 一日体験入学の開催 保育所、小学校、中学校との連携事業 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年100校以上の中学校訪問をしており、ある程度剣淵高校の教育活動を理解して頂いている。今後は、進路を剣淵高校へ進めてくれる中学校を中心に訪問活動を進める必要がある。 中学校が主催する高校説明会は、直接生徒に剣淵高校の教育内容を説明できる機会である。今後は、旭川の生徒が来る各中学校が主催する高校説明会に剣淵高校も参加できるよう進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 剣淵高校の特色ある教育活動の工夫した紹介を、中学校訪問や学校説明会等で実施し、新たな助成制度（資格取得）の創設、メディアを活用した取り組みで生徒の確保へとつなげる。

D ~これまでに実施したこと~	C~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
(前ページの続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・町内では、保育所や小中学校と連携して、花壇づくりなど体験活動を行って交流を図った。今後も剣淵高校の魅力を児童生徒や保護者に伝えていく取り組みを進める必要がある。 	
<p>②上川農業改良普及センター士別支所主催の販売会において、VIVA マルシェや町内加工団体と剣淵高校が連携し、農産物販売会を実施した。【高校】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物販売会は盛況であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売会を通じて自らがつくった農産物を買ってもらえる喜びと農業の魅力を感じることで、新規就農者の確保へとつなげる。
<p>②町内の農業者と連携し、農業国際系列2年次の生徒が委託実習を行った。【高校】</p> <p>②夏まつり等のイベントへ参加し、町民をはじめ積極的に交流を図った。【高校】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委託実習先の確保とさらなる充実を図ることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託実習については、委託実習先を確保し、さらなる充実を図る。 ・夏まつり等のイベントには、今後も積極的に参加する。
<p>③福祉施設と連携し、生活福祉系列2~3年次の生徒が委託実習を行った。【高校】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委託実習先の確保とさらなる充実を図ることが必要である。 ・町として今後、新たな支援を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託実習については、委託実習先を確保し、さらなる充実を図る。 ・町として新たな支援を検討する。

基本目標2 地域の魅力と発信力を高め、町に訪れる人を増やす

数値目標	観光入込客数 70 万人 (H31 年度) ※H26 年度は 65.4 万人。
進捗状況	H27 年度 66.0 万人



施策2-1 「絵本の里けんぶち」をさらに広げ、観光・交流や移住を促進します。

P ~プラン (計画) の内容~

<p>施策の目標 (KPI)</p> <p>■ 絵本にちなんだイベントや企画数 : 265 回 (5 年間合計)</p> <p>↓</p> <p>H27 年度 53 回 【進捗率 : 20%】</p>	<p>本町は「絵本の里」として長年にわたってまちづくりを進めています。近年は本町が舞台となった映画が制作・上映されたこともあり、町外にも「絵本の里けんぶち」がさらに広く知られるようになりました。</p> <p>「絵本の里」のまちづくりは、観光振興や移住・定住を進めるうえで本町ならではの長特長であり、今後も「絵本の里」としての情報を発信し、取り組みを進めていくことで、観光・交流や移住の場、また、絵本に関心のある人たちが集まる場となるようにしていく必要があります。</p> <p><取り組み内容></p> <ol style="list-style-type: none"> ①「絵本の里けんぶち」の情報発信 ②絵本にちなんだイベントや企画の実施 (作品展示など) ③「絵本の館」の機能向上 (映画鑑賞ができる機能・施設など) ④「絵本の里」を次代につなげる人づくり (町への愛着心や郷土愛の向上促進など) ⑤絵本作家や絵本に関する仕事の活動支援、定住促進など
---	---

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
①絵本の館 HP を活用した。【教育課】	・ 随時更新をしている。	・ 絵本の館 HP については、掲載内容等の充実を図っていきたい。
②例年開催している絵本の里大賞や原画展、絵本まつり等を実施したほか、全国紙芝居まつり北海道けんぶち大会を開催した。【教育課】	・ 絵本の里大賞や原画展、絵本まつりは 25 回目を迎え、町内外の人たちをはじめ、絵本作家、出版社などに絵本の里のイベントとして知られている。	・ 引き続き絵本の里づくり実行委員会、絵本の里を創ろう会等と連携を図り、継続して実施していきたい。

D ~これまで実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
③絵本の館展示ホールを活用し、町民映画鑑賞会を開催した。【教育課】	・映画鑑賞会は多くの方から評価をいただいたが、上映する映画によっては展示ホールの広さでは難しい場合もあった。	・上映内容、鑑賞者見込み数等を検討した中で上映していきたい。
④小学校総合学習授業（6年生）でまちづくりに関わる授業を行うことで、愛着心・郷土愛の向上を図った。【教育課】	・総合学習授業でのまちづくり授業により、自分の町を知ることによって愛着心・郷土愛の向上に効果があったと考える。	・平成28年度も総合学習でまちづくり授業を行い、自分の町を知ることによって愛着心・郷土愛の向上を図っていく。 ・小中高校による連携教育推進協議会における、ふるさとキャリア教育の取り組みも推進していきたい。
⑤未実施である。【町づくり観光課】	・短期間での成果は難しいが、長期的な視点で取り組んでいく必要がある。	・絵本作家との交流等の中で、状況を把握し検討する。

施策2-2 道の駅の魅力を高め、観光・交流や町のPRに活かします。

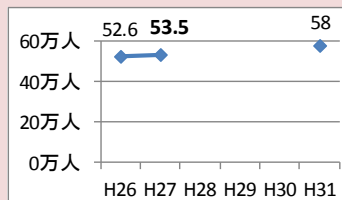
P ~プラン（計画）の内容~

施策の目標（KPI）

■道の駅利用者数：58万人（H31年度）

※H26年度は52.6万人。

H27年度 53.5万人



「道の駅絵本の里けんぶち」は、剣淵町の情報を発信したり、農作物や特産品などを販売する場として重要な役割を担っています。道の駅を利用する人が増えることによって、剣淵町内の経済が活性化するばかりでなく、剣淵町を知ってもらう機会となり、観光・交流の拡大や移住にもつながる可能性が高まることとなります。道の駅での滞在・販売・情報発信などに関する機能を高めていくことが必要です。

<取り組み内容>

- ①道の駅の利便性の向上による利用者、売上げの増加（決済機能、商品を含め魅力の充実）
- ②道の駅周辺における高速道路パーキングエリアの整備、ハイウェイオアシス化
- ③道の駅、剣淵温泉レークサイド桜岡等での情報発信機能の強化（広域的な情報発信、外国人向け情報発信）
- ④道の駅をはじめ町内の観光交流施設・スポットの周遊促進

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
<p>①③④【交付金事業】観光地づくり推進事業 事業費 11,867,023 円 (KPI) 観光入込客数の増加 10,000 人／実績値 6,000 人 【町づくり観光課】</p>	<p>・海外メディアの招聘により、取材から得られる海外からの視点や、町内関係者で構成する協議会を通して得られる気づきなどにより、今後の方向性や改善点が明確になるなどの成果があった。</p>	<p>・今後は、さらに一歩進めた旅行代理店との連携などを進める。</p>
<p>①【交付金事業】「道の駅絵本の里けんぶち」購買活性化事業 事業費 8,229,600 円（町単独費含む） (KPI) 観光入込客数の増加 10,000 人／実績値 6,000 人 ・消費者を飽きさせないよう、道の駅の商品レイアウトなどを改めた。 ・直売所にて出品者に売上状況が伝わるようなシステムを導入した。【町づくり観光課】</p>	<p>・オープン当初から使用されていた POS レジシステムの更新に合わせて、商品陳列棚のレイアウトを変更し、商品カテゴリーの整理を行ったことで、消費者の購買意欲を高めることにつながった。</p>	<p>・道の駅は、オープンから 10 周年を迎えようとしており、海外からの観光客向けに免税対応したレジシステムの導入などを行うなど、先を見据えた準備を進める。</p>
<p>④【交付金事業】けんぶち宿泊応援割引券事業 事業費 806,000 円 ・10 月 1 日～3 月 31 日の間、レークサイド桜岡特別プラン（1 泊 2 食付き）利用時に、1 名につき 2,000 円を助成した。（割引率約 27%） ・助成額 806,000 円 ・403 名が利用し、利用率は 40.3%であった。（1,000 名想定） 【町づくり観光課】</p>	<p>・ウェブ上に限られてはいるが、宿泊者応援として夕食メニューに付加価値をつけるなどして、宿泊者の伸びが見られた。</p>	<p>・宿泊稼働率を上げるために、閑散期に積極的な特別プランを実施する。</p>
<p>②平成 27 年 8 月、国土交通省の「高速道路の SA、PA を地域の核とするためのモデル事業」に応募した。現在、モデル事業採択に向け、旭川開発建設部、ネクスコ東日本北海道支社等と協議中である。【町づくり観光課】</p>	<p>・現在、国土交通省のモデル事業採択結果を待っている状況である。</p>	<p>・PA 整備については、採択結果にかかわらず継続的に要望活動を実施していく。</p>

施策2-3 剣淵が持つネットワークを、地域の活性化や観光・交流などに活かします。

P ~プラン(計画)の内容~

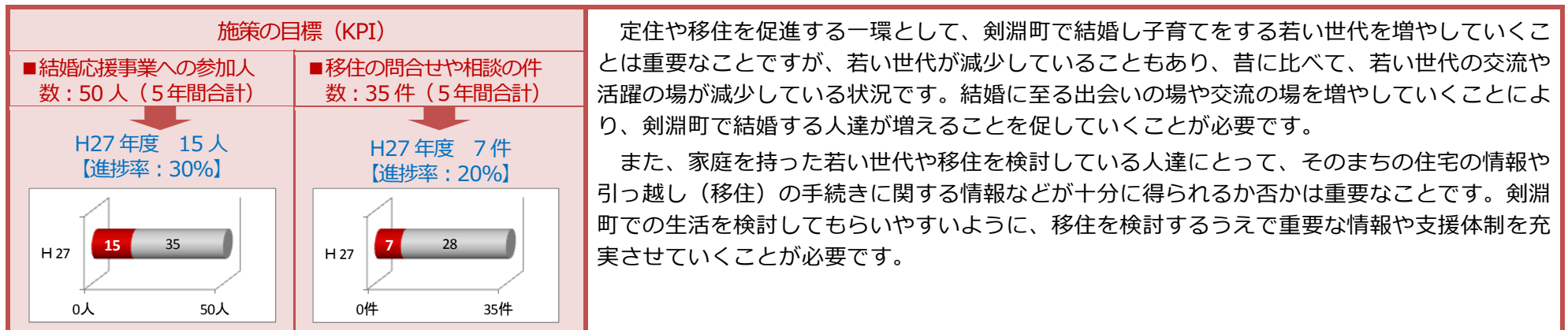
<p>施策の目標 (KPI)</p> <p>■ 町外の国や地域との交流件数：80件(5年間合計)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>H27年度 26件 (国内12件、国外14件) 【進捗率：32.5%】</p> <p>H27 26 54 0件 80件</p>	<p>本町は姉妹・友好都市である富山県射水市、香川県さぬき市との交流を行っているほか、耐寒テスト基地が町内にあることを縁に、自動車メーカーのマツダ(株)との交流が住民主体で行われています。また近年は、本町を舞台とした映画ができたことにより、映画を通じたネットワークが広がっているほか、アルパカ牧場を縁としてペルー共和国タルマ市との交流も進んでいます。</p> <p>このような町外の人や自治体、企業とのつながりを大切に、地域の活性化や観光・交流の促進、さらには移住の促進にもつなげていくことが必要です。</p> <p><取り組み内容></p> <p>① 剣淵町にゆかりのある人達との連携強化(移住・定住サポーターとしての協力要請など)</p> <p>② 剣淵町にゆかりのある自治体や企業等との交流(射水市、さぬき市、マツダなど)</p> <p>③ 北海道町村会が推進する道外の自治体との交流・連携事業への参加(東京23区など)</p> <p>④ 海外も含め町外への情報発信、プロモーション*の推進</p> <p>*ものを売る時、関心を高め購買を促す活動のことで、ここでは、町への関心を高め、知名度や好感度をあげたり、来訪を促すことです。</p>
---	--

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
<p>④【交付金事業】タイ国観光・物産プロモーション事業 事業費 1,032,434円 (KPI) 観光入込客数の増加 10,000人/実績値 6,000人</p> <p>④【交付金事業】観光地づくり推進事業 事業費 11,867,023円 (KPI) 観光入込客数の増加 10,000人/実績値 6,000人 【町づくり観光課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現地有力雑誌や有力メディアを町へ招聘し、町内の観光コンテンツを紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外からの目線によるアドバイスを参考に、海外からの誘客促進に務める。 ・現地旅行代理店等へのプロモーションや細かい対応が望まれる。
<p>① 剣淵町出身者やゆかりのある方々で構成するふるさと会を開催した。年1回の総会や町関係者を交えて札幌市で懇親会を開催した。【町づくり観光課】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化等により会員数が減少しており、新たな世代の取り込みや会を通じた事業が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、総会に合わせて、札幌市で物販を行うなど、会員の加入増加に資する工夫が望まれる。

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
<p>②富山県射水市と姉妹都市提携を行い、剣淵町の夏まつり、射水市の農業産業まつりに訪問団を相互に派遣する交流を実施した。【町づくり観光課】</p> <p>②香川県さぬき市と友好都市提携を行い、小学生高学年を対象とした相互交流を実施した。【町づくり観光課】</p> <p>②マツダ(株)とは、耐寒テスト基地が縁として、剣淵・マツダとふれあう会を中心に、人を通じた交流、物産などものを通じた交流を行った。また、マツダ陸上競技部も合宿に訪れ、子ども陸上教室を開催した。【町づくり観光課】</p> <p>②平成27年9月には、ペルー共和国タルマ市と姉妹都市締結した。【町づくり観光課】</p>	<p>・マツダ(株)との交流が、平成28年度に30周年を迎えるということもあり、道の駅での広島物産展などを通じて、より一層縁が深まった。</p>	<p>・ゆかりのある自治体や企業等との交流については、地域の活性化や観光・交流の促進に大きく貢献している。今後、移住にもつなげる展開を行っていく。</p>
<p>③平成27年度から上川町村会が中心に、東京都杉並区と交流・連携事業が始まり、剣淵町も参加し、特産品販売を行った。【町づくり観光課】</p>	<p>・北海道産ということで特産品販売は盛況だったが、剣淵町含め上川管内の町村の認知度が低く感じられた。</p>	<p>・機会があれば参加し、特産品販売のみならず、移住PRを含めた町のPR活動を積極的に行う。</p>

施策2-4 剣淵での結婚や新たな生活を応援します。

P ~プラン(計画)の内容~



		<p><取り組み内容></p> <p>① 出会いや交流を増やす機会の充実（出会いパーティー、交流会など）</p> <p>② 若者が気兼ねなく交流できる環境づくり（異業種交流会、若者懇親会など）</p> <p>③ 移住を促す情報発信、情報冊子、相談体制の充実</p>
--	--	--

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
<p>①【交付金事業】絵本の里けんぶち婚活応援事業 事業費 600,000 円 (KPI) 参加者男女各 10 人/実績値男 8 人、女 7 人 【農林課】</p>	<p>・婚活応援事業で結婚には至らなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の見直しを行いながら、より良い出会いの場を確保するため平成 28 年度も実施する。 ・参加者同士のコミュニケーションを促せる取り組みを検討して進める。
<p>②異業種交流会、若者懇親会については、未実施である。【町づくり観光課】</p>	<p>・現在、VIVA マルシェをはじめ、若者の活動が活発になってきている。</p>	<p>・気兼ねなく話し合える場の提供を、平成 28 年度に計画している。</p>
<p>③空き家・空き地情報を町 HP で公開している。【町づくり観光課】</p>	<p>・空き家・空き地情報は、常に最新情報を掲載できる環境が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係各課の連絡・連携体制を強化する。 ・引っ越し時の手続きや剣淵町補助制度などをまとめた冊子を作成し、転入者に配布するとともに、移住 PR に利用する。 ・積極的に相談会等に参加し、剣淵町の PR 並びに移住者の確保に努める。

基本目標3 だれもが住みやすい、住んでみたい暮らしの場にする

数値目標	“住みよさ”を評価する住民の割合 75.0%以上 (H31 年度) ※「住み良い」「どちらかといえば住み良い」の合計。H27 年度実施の町民アンケートは 71.2%。
進捗状況	※総合計画の策定 (5年おき) にアンケートを実施しているため、最新の数値はH27 年度の数値 (71.2%) です。

施策3-1 子育てする場として魅力的なまちづくりを進めます。

P ~プラン (計画) の内容~

<p>施策の目標 (KPI)</p> <p>■子育てに関する満足度: 「満足」「やや満足」の合計 40.0% 以上 (H31 年度)</p> <p>※H27 年度実施の町民アンケートは 33.3%。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※総合計画の策定 (5年おき) にアンケートを実施しているため、最新の数値はH27 年度の数値 (33.3%) です。</p>	<p>剣淵町は、豊かな自然やあたたかな地域性、「絵本の里」のまちづくりなどが子育てをする場として評価を受けている一方、経済的負担の軽減や遊び場の充実などを求める声も少なくありません。子育ての場としてより魅力的なまちになるよう、支援の充実に努める必要があります。</p> <p><取り組み内容></p> <p>①子育て世代の負担の軽減</p> <p>②出産、入学、進学など子どもの成長の節目を祝う子育て支援</p> <p>③子育て世代が交流できる場づくり、託児つきイベントの増加</p> <p>④屋内交流施設の整備 (既存施設の活用も検討)</p> <p>⑤5町1村で組織する「君の椅子広域連携実行委員会」の連携強化と君の椅子プロジェクトと連携した小さなまちならではの子育て支援の充実と情報発信</p>
--	--

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
<p>①保育料の軽減 (国の利用者負担額基準の約 50%) 【住民課】</p> <p>①子ども医療費の助成 (中学生までの入院・外来まで所得制限なしで無料) 【住民課】</p>	<p>・保育料の軽減や中学生までの医療費無料化により、子育て世代の経済的負担の軽減につながった。</p>	<p>・継続して支援する。</p>

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
②未実施である。【町づくり観光課】	・誕生した子どもには「君の椅子」を贈呈しているが、その他は実施しなかった。	・入学、進学等の節目のお祝いの方針について、今後関係機関と協議する。
③交流の場づくりの一つとして「学びカフェ」とナビゲーター養成研修会を実施した。【教育課】 ③子育て支援センター、絵本の館、絵本の里を創ろう会による、「ちびっ子遊びタイム」の開催【教育課】	・家庭教育について、情報交流ができる場づくりにナビゲーターを活用していく必要がある。 ・乳幼児を育てる母親間の交流の場づくりと子育て情報の提供が図られる。	・ナビゲーターを活用する交流の場づくりへの取り組みを推進するよう検討する。 ・乳幼児期からの継続した子育て支援を関係機関が連携して推進していく。
④未実施である。【町づくり観光課】	・他事業を優先して実施したため、取り組みに至らなかった。	・既存施設を含め、有効な屋内交流施設の検討をする。
⑤誕生した子どもに「君の椅子」を贈呈する。札幌芸術の森で「君の椅子」10年展が開催され、広域連携町村PRイベントを開催した。【住民課】	・「君の椅子」10年展を通じて、例年以上に情報発信を行う事ができた。	・継続して事業を推進し、子育て支援の充実と情報発信を行っていく。

施策3-2 教育の場として魅力的なまちづくりを進めます。

P ~プラン（計画）の内容~

<p>施策の目標（KPI）</p> <p>■教育に関する満足度：「満足」「やや満足」の合計40.0%以上（H31年度）</p> <p>※H27年度実施の町民アンケートは33.8%。</p> <p>↓</p> <p>※総合計画の策定（5年おき）にアンケートを実施しているため、最新の数値はH27年度の数値（33.8%）です。</p>	<p>本町では、一人一人にあった細やかな教育が可能であるほか、食べ物に恵まれた環境や、町内の住民と高校生との交流など、小さなまちならではの良さを活かした教育が行われています。児童生徒数の減少によって起こりうる課題に対応しながら、充実に努めることが必要です。</p> <p><取り組み内容></p> <p>①魅力のある教育の充実（食育、体育など）</p> <p>②幼小中高が連携したふるさとづくりの推進（地域への愛着や誇りを持つ心の育成など）</p>
--	--

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
①小学校の農の日、小中学校の学校菜園などの農業体験学習や食べ物にふれあうこと、給食のお弁当の日など、食の大切さを知ってもらう食育を推進した。 【教育課】	<ul style="list-style-type: none"> ・食育によるお弁当の日は、親子で食べ物の大切さについて考えてもらう機会でもあり今後も必要。 ・学校と地域が連携した食農体験学習の機会づくりにより、地域資源を生かした特色ある体験学習を進めることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の充実に向けた施策を学校と地域が連携して推進する。
②推進に向けて小中高連携教育推進協議会を設立した。 【教育課】	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会を設立したことにより、ふるさと教育をはじめ、教職員、児童生徒交流など小中高の連携した取り組みが一層図られることが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から協議会において小中高の連携を推進しており、協議会と共にふるさとキャリア教育の取り組みを推進する。

施策3-3 だれもが住みやすい環境をつくり、守ります。

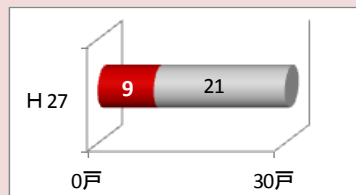
P ~プラン（計画）の内容~

施策の目標（KPI）

■町内に新たに建設された住宅数：30戸（5年間合計）

※個人や民間で建設したものも含む。

H27年度 9戸
【進捗率：30%】



本町は旭川市と士別市の間に位置し、国道や鉄道、高速道路が町内を通過しており、北海道内では比較的アクセスに恵まれているといえます。また、自然災害の発生が比較的少ないこと、新鮮な農産物を手に入れやすく有機栽培も盛んであること、障がいを持つ人達も働く場があることなど、交通アクセスのほかにも、定住を考えるうえでプラスとなる特長があります。

その一方で、若い世代が望む娯楽の場がないことや、住宅が少ないこと、商店等が減少していること、救急・医療体制が都市部に比べて十分ではないなど、定住を考えるうえでマイナスとなる部分も少なくありません。年代や各家庭の状況によって定住の条件は異なりますが、剣淵町民の多くが望む環境が必要です。中でも、高齢になっても健康を保ちながら、本町に住み続けられる環境づくりが重要です。

また、本町は、観光や定住、医療・福祉など、共通のテーマで周辺市町村と連携し関連事業を進めていますが、今後もこれらの事業を推進し、広域的な視点で人口減少対策の抑制や地域活性化をはかっていくことが必要です。

<取り組み内容>

- ①若い人達や移住者に向けた住宅、宅地の整備（空き家・空き地の調査やその後の活用）
- ②買い物環境の向上（商店街の活性化）
- ③医療・福祉体制の強化と充実（士別市との連携による救急体制の強化、有償ボランティアの育成、見守り支援、健康寿命をのばす取組など）
- ④地場農産物の地産地消の推進（住民が食の豊かさを実感できる機会の充実）

- ⑤障がい者の生活や社会活動を支援する環境づくり（子どもから高齢者まで集う拠点づくり）
- ⑥「北・北海道中央圏域定住自立圏」の推進（2市9町2村広域連携）

D ~これまでに実施したこと~	C ~Dに対する検証・評価~【担当課の検証】	A ~今後の展開、推進上の留意・改善点など~
⑤【交付金事業】「地域交流館てとて」ふれあい交流事業 事業費 2,300,000 円（町単独費含む） (KPI) 障がい者等の交流者数 250 人／実績値 495 人 【健康福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年まで、士別市で実施していた地域活動支援センター事業を、旧中林写真館を改修し、「地域交流館てとて」で実施していくことにより、利用者が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、さらに地域の住民が集えるような施設を目指し、参加しやすい事業を検討する。
①教職員住宅の建設を検討 【町づくり観光課】	<ul style="list-style-type: none"> ・検討の結果、平成 28 年度に教職員住宅を建設することとなった。 ・宅地造成に向けた新たな用地の確保を検討することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度に教職員住宅を建設する。
②町内購買促進スタンプ事業補助金 ・ビバスタンプの発行 【町づくり観光課】	<ul style="list-style-type: none"> ・ビバスタンプ発行により、消費者の購買欲を高めているが、マンネリ化を解消するための工夫が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンプ率の改定や利用率向上につなげる取組を検討する。
③元気アップ教室参加者に、乗合自動車「じんじん号」の運賃を助成した。 【健康福祉課】 ③有償ボランティアの育成、見守り支援については、未実施である。 【健康福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> ・元気アップ教室へ乗合自動車「じんじん号」の助成を実施することで、農村地区の参加者が増え、継続的な介護予防教室への参加者増加につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な介護予防教室への参加を促すため、平成 28 年度から元気はつらつくらぶにも、乗合自動車「じんじん号」の助成を開始する。 ・有償ボランティアの育成、見守り支援については、今後検討する。
④剣淵町特産研究グループ「福有会」では、保育所と小中高の給食に安全で安心な地場農産物を加工した加工品を無償提供した。 【農林課】 ④VIVA マルシェや町内加工団体では地産地消を目的に、地場農産物の移動販売活動を実施した。 【農林課】	<ul style="list-style-type: none"> ・地元食材で加工した味噌の無償提供することで、食の安全・安心を考える機会づくりとなった。 ・夏祭りや道の駅などで、地場農産物や加工品を販売することで、地産地消を推進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者が、剣淵産の安全で安心な農産物等を提供できる機会をさらに充実させ推進する。
⑥北・北海道中央圏域定住自立圏をはじめ、11 事務事業を広域で実施した。 【町づくり観光課】	<ul style="list-style-type: none"> ・11 事務事業を広域で実施し、推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少対策の効果が見込める新たな広域的な行政運営の取組を積極的に検討する。